
真・恋姫†無双 ~優しい神様~

ORATORIO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真・恋姫†無双 ～優しい神様～

【Nコード】

N9377N

【作者名】

ORATORIO

【あらすじ】

もつとも強き『神』の力を持っていた少年は、その優しすぎる性格から不完全な覚醒をしてしまった。

人に化け物と忌み嫌われ、『アンノウン』と呼ばれる化け物からも『デキソコナイ』と呼ばれ…

心も体もボロボロになっても人間を嫌いになる事ができなかった少年が外史に降りるのお話…

「俺は弱いよ…だから化け物のくせに人間のふりをして…好きな人のそばにいるんだ…」

第0話 / 人を嫌いになれない化け物

誰もが眠る深夜…

暗い夜の闇が支配する時間に、

ザシュツ！

『ギヤアガ！』

2体のバケモノが戦っていた。

いや、戦っているのではない。

緑色のバケモノが一方的に押ししていた。

「…これで終わりだ…」

『くつ、出来損ない』とはいえ、最も『神の力を得た者』か…だが！

もう一体のバケモノが巨槍を杖代わりにして立ち上がる。

『貴様、苦しくはないか？』

「……………」

『貴様もすでにわかっておろう。人間は弱い…その為、異質を排除

する！』

「……………」

『その醜き姿！己の姿を見よ！』

「……………」

『人を超えたが、神にもなれずにいる異形の存在…貴様こそ！』

「…いな…」

『貴様こそ！』バケモノ』よ！』

「いなアアアアアアアツ！」

緑のバケモノの踵から刃が生える！

「シャアアアアアアアツ！」

そのまま緑のバケモノは飛び上がる。

踵を空中で上げ、そのまま

ドシュツ！

『グオオオオオオオオオオオオツ！』

バケモノに叩き刺す！

「ガアアアアアアアアアアツ！」

緑のバケモノは咆哮と共に更に刃を深く刺し、

「ガアツ！」

そのまま反対の足でバケモノを蹴り、くるりと一回転して着地した。

バケモノの頭に光が現れる。

『ぐうつ…まあ、いい。貴様の命はもうない。最後に…呪いながら死ぬがいい！』

そのまま笑うように、

ドガアアアアアアアアツ！

爆発して、バケモノはこの世から消えた。

「はあ…はあ…」

緑のバケモノは膝を付く。

すると、どんどん、緑のバケモノが姿を変えていき、最後には『人間』になった。

まだ少年と言ってもいい顔立ちで、来ている服は聖フランチェスカ学園の高校制服だった。

「ぐうつ…がつ…」

少年がその場で苦しむ。

「とうとう…最後か…」

少年は苦しみながらそう呟く。

初めて『変わった』時からわかっていた事だ。

「あゝあ…」

少年は空を見る。満天の星空だ。

「綺麗だよなあ…」

少年は最後に見る景色を見る。

「なんで俺…『人間』を嫌いになれなかったのかなあ。そうすれば長生きできたかもしれないのに…」

少年は思い出す。

化け物にもお礼を言おうとした子供…

子供を生かす為に自分を盾にした母親…

そんな2人を護る父親…

「嫌いになれるわけじゃないじゃないか…」

(どうせ…バケモノになるなら…)

少年の瞼が降りてゆく。

(心も…バケモノになりゃあよかったのに…)

少年が気を失うと同時に…少年の体は光に包まれて消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9377n/>

真・恋姫十無双 ~優しい神様~

2010年11月17日04時10分発行